

Title	デザイン理論 48号 投稿規程/執筆要領/編集後記/ 奥付
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 48 P.120-P.122
Issue Date	2006-05-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/52970
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

「デザイン理論」投稿規程

昭和37年11月11日改正, 昭和60年11月8日改正,
平成2年11月10日改正, 平成6年7月9日改正,
平成14年11月9日改正, 平成17年7月23日改正

1. 内 容：デザインに関する未発表の学術論文, 研究報告, 書評等。
2. 投稿資格：本会会員（共著の場合は共著者も本会会員であること）
3. 採 択：採否及び掲載号については編集委員会決定する。
4. 査 読：学術論文については, 編集委員会が査読者2名に査読を依頼する。査読者は, (A)無条件採用, (B)条件付採用, (C)不採用, という査読結果を編集委員会に報告する。査読結果は編集委員会が投稿者に通知する。
査読期間は2カ月程度とする。
5. その他の投稿・寄稿：研究報告, 書評, 図書紹介の投稿については, 査読はないが, 編集委員会において採否及び掲載号について決定する。例会・大会（プレ及びパネル発表を含む）の発表要旨については, 編集委員会から寄稿依頼する。
6. 執筆要領：別に定める。
7. 提出期限：基本的には随時受け付ける。ただし学術論文については, 査読のため, 5月（春）号掲載希望の場合は, 1月15日, 11月（秋）号掲載希望の場合は, 6月30日を締め切りとする。研究報告, 書評, 図書紹介は, それぞれ3月15日, 8月15日, 発表要旨は, それぞれ3月31日, 8月31日を締め切りとする。
8. 提出先：意匠学会編集委員会

なお, 以上の規程は, 平成17年7月23日より発効する。

1. 原稿

- ・原稿は、ワープロあるいはパソコン・ソフトで作成することが望ましい。
- ・A4大の用紙に1行40字、1頁32行程度で作成すること。
- ・学术论文の場合は、A4サイズのレイアウト見本3部同封して編集委員会宛に投稿すること。(テキスト・データ、図表版下あるいは図表データは査読を経て掲載が決まった段階で、最終原稿として最終的なレイアウト見本とともに編集委員会宛に郵送する。)
- ・研究報告の場合は、テキストおよび図表データとA4サイズのレイアウト見本を郵送する。
- ・書評、図書紹介、発表要旨については、テキストおよび図表データとA4サイズのレイアウト見本を編集事務局に郵送するか、あるいは編集担当者に電子メールに添付して送付する。
- ・学术论文、研究報告、等の本文データのファイル形式はプレーン・テキストかワードに限る。
- ・学术论文、研究報告、等の図表をデータで提出する場合、ファイル形式はJPEG、TIFF等の一般的なものとし、解像度、画像サイズ等を適切に設定すること。またその場合も必ずデータのプリントアウトを添付すること。
- ・原稿用紙を使用する場合は、本文は400字詰横書き原稿用紙を使用し、レイアウト見本を付す。

- ・投稿に際しては、原稿にコピーを手許に保存すること。

2. 原稿の分量

- ・学术论文と研究報告の場合は、本文、図版、図表、注等をすべて含めて、刷り上りで、14頁以内。(400字詰原稿用紙で約45枚)
- ・書評の場合は、刷り上りで2頁、4頁、6頁等偶数頁に収まることが望ましい。
- ・図書紹介及び発表要旨の場合は、刷り上りで2頁に収めること。

3. 原稿の構成

- ・学术论文と研究報告の場合は、本文(図版、図表、注を含む)とは別に欧文要旨(原則として英文)を添付すること。
- ・本文第1頁に、表題、著者名、所属機関名、キーワード、目次を付すこと。
- ・欧文要旨は、刷り上り1頁とする。語数は約200字。当該言語を母国語とする人による校閲を得ておくこと。
- ・キーワード(和文と英文)は、それぞれ5語以内とする。

4. 図・表のレイアウトなど

- ・図版はモノクロームとし、位置の指定、大きさ、レイアウト、必要なトリミングなどはすべて執筆者が行うこと。
- ・図版などの著作権の問題があると思われる場合は、執筆者自身が事前に許可をとっておくこと。
- ・当学会は、著作権についての責任は負わない。

編集後記

今春号は学術論文の数少なく、ここ数号が充実していたのに比べて物足りない結果となりました。査読結果が思わしくなかったことにも一因はありますが、昨年のプレイベントでの発表を含めて大会の発表者による投稿が思ったほどなかったことが大きな要因です。少し心配しています。査読については、最近投稿数と掲載論文数が増加傾向にあり、お願いした査読者が厳しくしてはと思われたのかもしれませんが、編集委員会で特に厳しくするといった方針を出したわけではありません。今後もどしどし投稿されることを希望します。

今年度の大会は、まだ具体的な内容は決まっていらないようですが、塚田耕一会員を中心としたご尽力で東京の杉野服飾大学で開かれることが決まっています。新たな会員や若手研究者の発表が期待され楽しみです。関西からの参加者の減少が心配ですが、ぜひ多くの会員が参加されることを望んでいます。

価値基準が経済的効果や収益性に収斂されようとしている現状は、意匠学会のようにどちらかという人文系の性格をもつ学会および研究者にとっては、まさに冬の時代です。消費のための（利益を生む）文化が称揚される割には、文化の創出や維持発展のための地道な努力はなおざりにされています。学会は時流を反映させつつも、着実に歩むところにその使命があります。今は一步一步の成果の積み重ねに努力すべきではないでしょうか。

(文責：渡辺 眞)

編集委員

伊東徹夫 梅宮弘光 (副委員長)
太田喬夫 榊原吉郎 佐藤敬二
島先京一 末包伸吾 並木誠士
藪 亨 横川公子
渡辺 眞 (委員長)

デザイン理論 48号

Journal of the Japan Society
of Design, 48/2006

発行日 2006年5月31日

発行 意匠学会

事務局 〒560-8532

大阪府豊中市待兼山1-5

大阪大学大学院文学研究科芸術学講座内

TEL 06-6850-5120

FAX 06-6850-5121

発行者

意匠学会 編集委員会

事務局 〒610-1197

京都市西京区大枝沓掛町13-6

京都市立芸術大学美術学部第3研究室群合同研究室内

TEL/FAX 075-334-2255

編集責任者 渡辺 眞

印刷所 (株)北斗プリント社
